

事業所名

児童発達支援事業所あお

支援プログラム（参考様式）

作成日

7 年

5 月

1 日

法人（事業所）理念		・社員の強みを1つに：スタッフ各々の経験値や強みを組み合わせて、共にさらなる成長を目指します ・環境因子の重視化：対象児それぞれのご家庭、生活背景すべてに療育のヒントが隠れています。共に探していきます ・地域との一体化：療育のゴールは“地域社会の場”“多角的な視点で関わり、地域と密に共有を図ります					
支援方針		コンセプト⇒「その児を知り、個性を知り、どうして？を紐解いていく場。今を未来に繋げる一歩へ」 個性・特性を知ること、お子様の行動の理解を共にしていきましょう。療育は「答えは一つ」ではありません。環境を整えるだけでも、「できる力はある」こともお伝えしていきたいです。我々スタッフ一同、その子に合った支援を常に考え、見つけていきます。					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	・定められた固定コマに通うことで生活リズムの定着化を図っていく。 ・食事（箸など）や更衣（ボタンやチャック）、トイレ動作など日常生活動作向上につなげていく。					
	運動・感覚	・作業療法士を中心にその児の感覚スキル、運動スキルを評価・分析を行い、基本的動作及び日常生活動作獲得・向上につなげていく。 ・粗大、微細運動に加えて、感覚統合の一環である感覚遊び、眼球運動や視空間認知に関連するビジョントレーニングを通じて身体の使い方やゆくゆく就学につなげていく。					
	認知・行動	・絵カードを活用してプログラム提示を行い見通しを持った環境提示で対応していく。同時にタイマーや時計に印を設けることでの終わりの切り替えを身に付けていく。 ・「朝・昼・夜」、「春・夏・秋・冬」などの時系列、季節事の変化を絵本や関わり合い、イベントを通じて身に付けていく。 ・興味関心の幅を広げていくために本児の好きなものを組み合わせながら支援を展開していく。					
	言語 コミュニケーション	・ふれ合い遊びを通じて他者意識（三項関係）を確立していく。 ・フラッシュカードなどを活用して単語など語彙数を増やしていく。 ・自身の思いを言語化していけるように選択肢を設けることや指導員が実例を提供して「どうしたいのか」を言語表現できる力を身に付けていく。					
	人間関係 社会性	・指導員または他児と物の共有（貸し借り）を行う場面を設けていく。 ・指導員や他児と順番で取り組む関わり、ルール遊び、勝ち負けが生じるゲームを行い、社会性を育てていく。					
家族支援		・積極的な個別面談の促しを行ない、家庭等の悩み相談を伺い助言をしていく ・座談会など保護者同士の関わる機会を設けていく ・6カ月の個別支援計画に対して3か月ごとに現状確認の面談を設けていく			移行支援	・就学先の学校や放課後等デイサービスと連携を図り、情報共有を行っていく。 ・就学後から利用を検討される保護者様に向けて近隣の放課後等デイサービスの情報（空き、特徴）を共有し、了承頂いた上で発信していく	
地域支援・地域連携		・併用事業所や幼稚園・保育園との関係機関連携を実施していく ・役場と連携して地域向けの講演会を実施していく ・園に出張して園内研修に携わる			職員の質の向上	・リタリコ発達ナビの動画研修の活用（虐待防止、身体拘束等の必須研修も含む） ・作業療法士による支援向上研修の導入 ・勉強会の時間枠を設けていく	
主な行事等		・季節ごとのイベント ＊区分2を検討 ・保護者向け講演会 ・他事業所との合同勉強会等					